

常磐文藝

祝歌

館内幸十郎

常磐警備隊新聞を御自營
被遊候御事御祝ひ申上候加
之經營一社一人とは敬服の
外御座なく候御事業は獻身
的專業なれば御壯健の上に
も層一層の御自愛專一と奉
存候就ては左に愚詞を伸て
祝福申上候

いつまでや籠に小鳥の飼
はる可き

文の林に友呼ぶものを

ひとりてに籠の小鳥も還
り行く

文の林の奥を戀しき

常磐なる文の林にかひり
ける
籠の小鳥の身こそ嬉しき

詩 夜半

隈 眸

彼は只一人夜半の月影をふ
んで歩いた、往けく、往く
迄往け、其して往ける處迄

募集 文藝其他一般
投稿を歓迎します

行け、あゝ自分の行き終る
處は何處か、其れは生と死
の境悪魔のたどり狂ふ深い
淵であるのだ……？
もろくの悪戯は消れて無
くなれ、苦惱も惑も消れて
なくなれ、木の葉はばざり
と微かな音を立て、地に落
ちた

謹告

不肖四圍の事情已み難く嚴正中立を
標榜し本郡第四區縣會議員候補者た
る事を承諾し其旨聲明致候得共傍か
に省みるに今や國歩艱難の秋も申
すべき時局に際し金融機關の實務に
當る一使用人としては地方經濟界の
爲め挺身努力するより他に違無きを
自覺し爰に斷然立候補を取消し此度
の選舉には全然關係不致事に決心仕
候間此段謹告仕候也
十一月十一日

草野順平

第四區縣會議員
有權者各位

推薦廣告

第四區 公認候補者
政友派

佐藤庄太郎君

右縣會議員候補者として最適任者と
認め極力其當選を期す

立憲政友會本縣支部
石城政友俱樂部
第四區同志一同

松島水上養魚場の養殖した
カキ貝の取次店を開始しま
した極めて廉價に販賣しますから御
鼻負の程願ひます

カキフライ一枚廿錢

カフエー。タヒラ

平町紺屋町(住吉屋本店前)

東京コークス入荷

一俵に付九貫入金一圓七十錢
市内敏速に配達致します

平町月見町

佐藤鐵工所コークス部

電話三六二番

畏友川崎兄ノ日刊紙生
レタルヲ祝シ前途健全
ナル發達ヲ祈ル

平町字四軒町

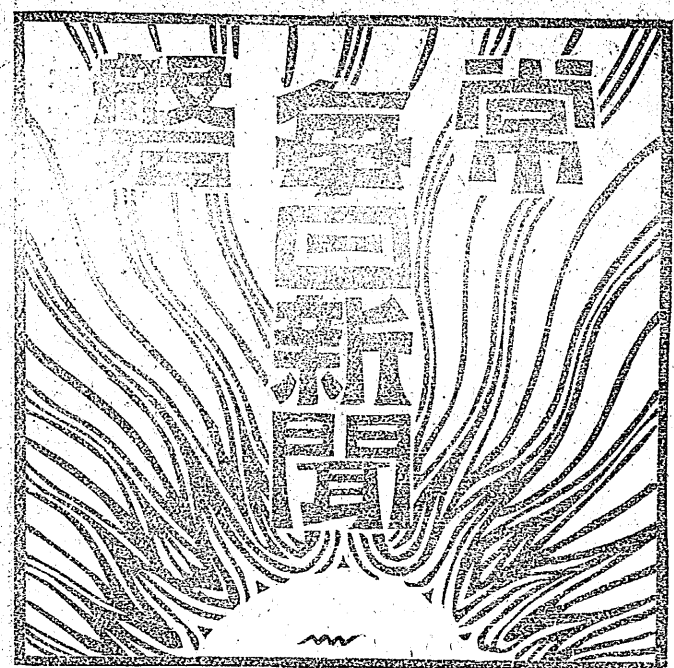
佐々木龍若

祝發刊

看護婦派出の求めに應ず

平町南町(電話三〇七番)

清野看護婦會



十一月十四日夕刊

定 一部金貳錢 月極
價 二限リ一ヶ月卅錢

五號十三字詰
一行子十錢

日曜、大祭
祝、ノ翌日

印刷所 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社

發行兼
印刷人

川崎文治

發行所 福島縣石城郡平町
字長橋町卅五番地
常磐毎日新聞社

私の見記者

いはらき記者

宮田三朗

天才肌の川崎君は此場合に
も遺憾なく本領を發揮した
君の最も得意とする鋭い観
察眼は細心の注意に依て次
の如き結果を齎したのであ
る(以下川崎君の談話)寒い
晩の十一時過ぎ例の如く平
警察署をのぞいて帰宅しよ
うと立前に差違ると入達
いに「平區裁判所」と記した
提灯が官舎の方から出て行
くのでした、フト私の頭に

淨んだ疑問は今頃裁判所の
使丁が署長官舎から……
であつたのです、同時に引
摺られるやうに私は使丁の
後をつけた、才植小路の中
程、あるそばや寄つて六
ツか七ツのそばを注文する
のを聞いて私は俄に心臓の
高鳴りを覺わずに居られな
かつたのです、二午後十一
時過裁判所からそばを六ツ
七ツ注文」之は決して唯事
であるべき道理は無い、現
んや彼は令署長の許へ何事
かの使をして来た處である
感ふ思ふと私は其儘裁判所
に飛んだのでした、果然々
々其夜の検事局は煌々たる

電燈の下に田代検事以下見
知らぬ檢事が二名嚴然とし
て何事かの訊問中で、其前
には級の驛長や磐城炭礦の
某々々杯高級役員かズラリ
と並んで居るではありませ
んか、更に書記室には和田
君始とし全員頗る緊張して
頻りに筆を走らして居りま
す、グルリ廻て被告人控所
を窺ると入山炭礦の役員や
ら鐵道院の制服着けた官吏
も、大日本炭礦の役員も居
るといふ始末で、私は思は
れませんでした、そして直
覺的に大事件突發を知り得
たのです。(續)

憲派は草野氏を

益々窮地に陥らしむ

偽電や質手紙の奸策宣傳

政派掉尾の活躍

草野順平氏の立候補辞退と共に憲派は狼狽の餘り内部に紛擾を來すに至り如何にかして頽勢を挽回し政派佐藤庄太郎氏に

△打撃を加へんと種々の奸策を巡らし草野氏の偽電を發して有権者を瞞着する等極めて苦肉の策を弄して居るが更らに草野氏の實父佐藤甚右衛門氏及び實弟三氏の依頼状を忍かに印刷に附し有権者に配附した右に就いて白井

△代議士は「實父や實弟は最初から順平の出馬に不同意を唱へて居たのであるから今になつて依頼状を發する筈なく憲派が勝手に作つたものを配附したのである事は云ふ迄もない事であるから惑はされる選舉民の諸君がお氣の毒である又字都宮から順平が

△憲派に運動の激勵狀を發した等と盛んに宣傳して居る様子であるが現在字都宮とは全々方角違ひな方面に居る順平が字都宮から書狀を出す筈はない」と語つた更らに前縣會議員中野浩忠君は「斯うなると草野君が實に可愛だ、全々

△立候補の意志なき者を無理に擔ぎ上げ然も白井翁の懇諭に依つて明らか立候補を取消したに拘らず憲派は遮二無二草野君を政争の渦中に捲き込んで益々窮地に墜れしめやうとして居るのである、私は自己の黨勢を扶殖せんが爲めには前途ある者の利害休戚を顧みざる處なくあらゆる奸手段に訴へて快とするが如き憲派の行動を憎まねばならぬ」と憤慨した、依つて政派は徹底的に草野氏辞退の事實を有権者に知らせしめんと本日數萬枚の宣傳ビラを作り

△自働車を駆つて是れを散布し今日を以て終りとすべき選舉運動掉尾の活躍を試みた

△常磐片々
憲派偽電の最後ツ屁も盡きたと見て今度は同名異人の佐藤庄太郎を擔ぐ
此式で行くなら憲派の家に生れる赤兒の名には政派領袖の名を附すべし
さすれば選舉の妨害に効多く自黨に忠實を勵むの所以となるべし
親に小言を云はれて轢死した少女がある、ウツカリ親風も吹かせられない世の中

めを受くべきを憚り勿論固辭せる由であるが斯かる奸策の常套手段を弄せる憲派は益々周囲の同情を失いつゝある由

殖林苗木の生産激減
暴利商現るを懼れ
郡當局の調査
石城郡にては京濱大震災後のバラック用材を供給すべく盛んに杉其他の幼樹材を伐する者多く獨り治水上に關係あるのみならず郡林業の消長にも及ぼす影響甚からざる爲め郡當局は此際植林を奨励すべく初秋來植栽に要する苗木の調査中であつたが本年は春來天候順ならず殊に盛夏早天打續いた爲め生長遲緩に基因する生産激減の結果當業者は此機に乗じて巨利を博せんと劃策中のものある爲め郡當局は苗木を比較的廉價に供給せんと種々調査中である

娼妓なるを嫌つて
妙齡の女河中に投身
通行中の荷馬車輓が発見
身を挺して漸く救助
昨夜午後八時頃石城郡赤井村八字鹽田内夏井川に架したる新橋より妙齡の婦人投身せるを折柄通行中の荷馬車輓大平林藏が発見直ちに身を挺して河中に飛び込み卅間の下流にて漸く救助し藁火を焚きて蘇生せしめたが投身女は同村福島炭礦坑夫今村萬作方居住新潟縣生れ金子さん(一八)とて幼い時に両親に別れ遠縁に當る萬作方に養はれて居た處

鎌田トネルに少女の轢死体轉る
養父に小言を云はれて
平町字柳町十八番地鈴木和三郎養女ひで(二六)は昨晩神谷村地内鎌田山隧道にて轢死したのを今朝線路坑夫が發見四倉分署より検視に

防疫員好問へ豚コレラ?
石城郡好問村大字上好問字山下井上萬藏方飼養の豚は豚コレラに罹された徴候ある爲め本日平署囑託草野防疫員出張した

遺失した金貨業の靴
證文がフイ
双葉郡久之濱字北町金貨業岡田恭衛は十三日夜久之濱より湯本迄の間に於ける列車の中に靴を遺失し平署に届出たが其中には印鑑及び十數通の貸付證文が這入つて居たと

平裁判だより
國九太一、雙葉郡幾世橋藤藤勉(二二)は去月廿一日田中己之松を丸太にて毆打し負傷せしめ略式罰金廿圓
國馬トロで轢く、石城郡川前村大字川前前立トロ輓遠藤正義(二四)は本年七月

各種注射液
市原院長購入
シフテリヤ血精其他の注射

生命保險平代理店にては震災後の社務に關し親しく被保險者の諒解を得べき爲め十八日午前十一時より聚樂館に於て懇親會を催し郡内被保險者を全部招待する由裸蠟燭から

漁船の火災
江名消防出動
石城郡豊間村大字沼の内字新町鈴木文十郎處有發動機漁船に昨夜八時頃江名濱港に碇泊中船夫が機關を點検せんとして裸蠟燭を使用したる結果石油に燃れ移り危く火災を起さんとする際江名消防組駆付漸く鎮火するを得たと

石城郡の避難者三千名
郡衙の下調べ
既報石城郡にては十五日夜半零時を期して震災避難民の調査を遂ぐる筈であるが是れに先立ち郡衙に於て豫め調査した結果に依ると概數二千九百五十六名である

東洋生命懇親
東洋
出張したが原因は昨日午後三時頃養父に小言を云はれたのを苦にしてである

衛生上の問題となつた事は既記の如くであるが警城病院長市原卯太郎氏は此程懇々上京してシフテリヤ及び六〇六其他各種の注射液を購入歸平した

村長就任認可
石城郡窪田村長大平陸四郎及び神谷村長長壽男の兩氏は十三日附を以つて村長就任認可さる

出生
△田町 當時東京府豊多摩郡中野町永山六郎長女匡子
△婚姻
△伊達郡藤田町字南 大竹太吉(四二)材木町中村せい(三五)
△死亡
△四丁目 箭内兼吉(四四)

廿二日擔當の注意を欠き馬トロにて木田榮次(七七)を轢き左大腿部に傷を負はせ同卅圓

△出生
△田町 當時東京府豊多摩郡中野町永山六郎長女匡子
△婚姻
△伊達郡藤田町字南 大竹太吉(四二)材木町中村せい(三五)
△死亡
△四丁目 箭内兼吉(四四)